

比較

日本の会社

荒木昌保 著

東京海上火災保険
安田火災海上保険
大正海上火災保険
住友海上火災保険
日本火災海上保険
同和火災海上保険
日産火災海上保険
興亜火災海上保険
千代田火災海上保険
日新火災海上保険
日動火災海上保険
富士火災海上保険
大東京火災海上保険
共栄火災海上保険
大成火災海上保険
第一火災海上保険
東洋火災海上保険
朝日火災海上保険
太陽火災海上保険
大同火災海上保険
東亜火災海上保険
日本地震再保険

損害保険

実務教育出版

比較

日本の会社

荒木昌保 著

損害保険

実務教育出版

|||||比較日本の会社シリーズ|||||

業界の現況と展望，各社の経営状況，組織・人事・給与などの情報を満載。就職を控えた学生の会社選び，企業および取引先関係者の情報収集に最適！

自動車 梶原一明著
定価 980円

総合商社 海藤 守著
定価 980円

航空・旅行 横山元昭著
定価 980円

生命保険 藤田公道著
定価 880円

損害保険 荒木昌保著
定価 980円

銀行 斎藤文則著
定価 880円

証券会社 門田 稔著
定価 980円

新聞社 杉田栄三著
定価 880円

出版社 寺門 克著
定価 880円

広告代理店 斎藤悦弘著
定価 980円

外食産業 島田隆司著
定価 880円

ビッグストア 島田陽介
緒方知行共著
定価 980円

食品メーカー 佐原 武著
定価 980円

スポーツ用品 毛利好彰著
定価 980円

はじめに——改訂にあたって

本書は、損害保険と損害保険事業に興味と関心を持っておられる方々に、損害保険業界の全般を紹介する目的で書かれたものである。さらに、業界外の方々に対しては、損害保険業界にはどのような会社があり、そのそれぞれがどのような性格と特色を持ち、そこに働く人たちがどのように期待されているかといったことなどを知っていただく上で、いささかのお役に立ちたいとも念願している。

*

日本の損害保険業界は、きわめて大きな成長の可能性を持つ業界である。多くの業界の中には、すでに成長の限界に達して事業内容の転換を迫られているところや、製造原価の面から国際競争力を失って撤退を余儀なくされているところも二、三にとどまらない。しかし損害保険業界には、青年期というよりむしろ少年期といってよいほど、明るい未来と広い展望が開けている。

その理由の第一は、世界の先導的地位にある日本経済の底力に求めることができる。

日本経済はあらためて述べるまでもなく、GNPにおいて世界第二位の水準にあり、企業の経営能力、技術水準、国民の教養と生活レベル、勤勉で進取的な国民性などから考えると、その潜在的な発展力は世界のトップクラスに位置していることは間違いない。逆にそのための悩みもないわけ

ではないが、客観的に見ればこれは贅沢な悩みというべきものであろう。

このような日本の経済力の強さと損害保険事業の関連を考えた場合、損害保険業界は他の業界とは異なり、日本のすべての産業と個人に、直接つながっているという特性を持っている。どのような種類の企業とも、どここの家庭とも、損害保険は密接に結びつくものである。したがって、経済の構造変動に対して中立的であり、他の業界のように特定の需要の変化に影響されることがない。

企業の分野にしろ家計の分野にしろ、日本の経済が総体としての強さを失わない限り、損害保険業界もまたその強さを失うことはないといえよう。

理由の第二は、日本の損害保険の普及度が欧米の諸国に比べてまだ低いということである。欧米の例を考えると、日本の場合はいく段と損害保険が普及する余地がある。

日本の損害保険業界はこれまで確実な歩みで成長してきたが、その内容は物的な損害についての保険が主力になっていた。しかし今後は物以外を対象とする保険、たとえば傷害保険とか賠償保険といった分野での伸びが大きくなると考えられる。事実、近年はそのような新しい保険が著しく増えているし、この傾向はこれから長期にわたって続くものと思われる。

理由の第三は、損害保険の国際的な性格がますます強まるだろうということである。

科学技術の進歩と共に、マンモスタンカー、大型航空機、化学コンビナート、原子力発電所、人工衛星等々、一つの保険が巨大な危険に対応しなければならなくなると、保険会社としては事故が起きた場合の危険負担を軽減するために、他の保険会社に再保険をかける。この再保険は相互に重

なったり交錯したりして、国際的な網の目をつくることになる。

また企業や人の海外進出が盛んになると、損害保険会社としても当然それに伴う海外でのサービスを提供しなければならない。国によっては外国の保険会社の営業を認めないところもあるが、その場合はその国の保険会社から再保険を引受けるという形で対応することになる。

このようにして、日本経済が国際化すればするほど、損害保険会社も国際性を強めていくことになり、それは同時に事業が国際的に発展することにもつながってくる。

また心理的な側面からいっても、時代の変化に沿って、増大する危険からの回避、賠償觀念の発達、安定への欲求など、社会全体の損害保険への期待が質的にも量的にも高まってきていることは明らかである。このような社会の期待に、損害保険業界が真剣に応える限り、損害保険事業の将来は洋々たるものであるということができる。

*

では損害保険業界を内部的に見ればどうであろうか。

もちろん業界に特有な欠点もないわけではなく今後の努力にまつべき面も少なくはないが、概していえば長所が目立つ業界である。具体的にその長所をいくつか挙げてみよう。

- ・ 企業間の連繋が密接で、協調的であり、業界としてのまとまりがよい。
- ・ 企業の安定度が高い。
- ・ 世界的に活躍している企業が多い。したがって国際感覚が豊かである。

・各社に独自の性格があり、小企業でも特色を発揮できる。

・競争原理も失われていない。

・企業内にあたたかさがある。

・従業員の教育に熱心である。

・従業員の質が高く、研究熱心な人が多い。

・従業員の性格が概して誠実で、堅実である。

法制的な側面や大蔵省の行政指導を含めて、日本の損害保険業界は諸外国の同種業界に比較しても、はなはだすぐれた業界であるといわなければならない。俗な言葉でいえば、企業の粒が揃っている。この点は大いに誇ってもよいだろう。

*

最後に、本書の成るに当って、日本損害保険協会、損害保険会社二二社、保険研究所、並びに実務教育出版から賜わったなみなならぬご厚意に対し、衷心より深謝の念を申し述べて寸序を結ばせていただくことにする。

昭和五十八年四月

荒木昌保

本書は、損害保険と損害保険事業に興味と関心を持っておられる方々に、損害保険業界の全般を紹介する目的で書かれたものである。さらに、業界外の方々に對しては、損害保険業界にはどのような会社があり、そのそれぞれがどのような性格と特色を持ち、そこに働く人たちがどのように期待されているかといったことなどを知っていただく上で、いささかのお役に立ちたいとも念願している。

*

日本の損害保険業界は、きわめて大きな成長の可能性を持つ業界である。多くの業界の中には、すでに成長の限界に達して事業内容の転換を迫られているところや、製造原価の面から国際競争力を失って撤退を余儀なくされているところも二、三にとどまらない。しかし損害保険業界には、青年期というよりむしろ少年期といってよいほど、明るい未来と広い展望が開けている。

その理由の第一は、世界の先導的地位にある日本経済の底力に求めることができる。

日本経済はあらためて述べるまでもなく、GNPにおいて世界第二位の水準にあり、企業の経営能力、技術水準、国民の教養と生活レベル、勤勉で進取的な国民性などから考えると、その潜在的な発展力は世界のトップクラスに位置していることは間違いない。逆にそのための悩みもないわけ

ではないが、客觀的に見ればこれは贅沢な悩みといふべきものであらう。

このような日本の經濟力の強さと損害保險事業の関連を考えた場合、損害保險業界は他の業界とは異なり、日本のすべての産業と個人に、直接つながっているという特性を持っている。どのような種類の企業とも、どここの家庭とも、損害保險は密接に結びつくものである。したがって、經濟の構造變動に対して中立的であり、他の業界のように特定の需要の變化に影響されることがない。

企業の分野にしろ家計の分野にしろ、日本の經濟が總体としての強さを失わない限り、損害保險業界もまたその強さを失うことはないといえよう。

理由の第二は、日本の損害保險の普及度が欧米の諸国に比べてまだ低いということである。欧米の例を考えると、日本の場合はより一段と損害保險が普及する余地がある。

日本の損害保險業界はこれまで確実な歩みで成長してきたが、その内容は物的な損害についての保險が主力になっていた。しかし今後は物以外を対象とする保險、たとえば傷害保險とか賠償保險といった分野での伸びが大きくなると考えられる。事実、近年はそのような新しい保險が著しく増えているし、この傾向はこれから長期にわたって続くものと思われる。

理由の第三は、損害保險の國際的な性格がますます強まるだろうということである。

科学技術の進歩と共に、マンモスタンカー、大型航空機、化学コンビナート、原子力発電所、人工衛星等々、一つの保險が巨大な危險に対応しなければなくなると、保險会社としては事故が起きた場合の危險負担を軽減するために、他の保險会社に再保險をかける。この再保險は相互に重

なったり交錯したりして、國際的な網の目をつくることになる。

また企業や人の海外進出が盛んになると、損害保険会社としても当然それに伴う海外でのサービスを提供しなければならない。国によっては外国の保険会社の營業を認めないところもあるが、その場合はその国の保険会社から再保險を引受けるという形で対応することになる。

このようにして、日本經濟が國際化すればするほど、損害保険会社も國際性を強めていくことになり、それは同時に事業が國際的に發展することにもつながっていく。

また心理的な側面からいっても、時代の変化に沿って、増大する危険からの回避、賠償觀念の発達、安定への欲求など、社会全体の損害保險への期待が質的にも量的にも高まってきたことは明らかである。このような社会の期待に、損害保險業界が真劍に応える限り、損害保險事業の将来は洋々たるものであるということができる。

*

では損害保險業界を内部的に見ればどうであろうか。

もちろん業界に特有な欠点もないわけではなく今後の努力にまつべき面も少なくはないが、概していえば長所が目立つ業界である。具体的にその長所をいくつか挙げてみよう。

- ・ 企業間の連繋が密接で、協調的であり、業界としてのまとまりがよい。
- ・ 企業の安定度が高い。
- ・ 世界的に活躍している企業が多い。したがって國際感覚が豊かである。

・各社に独自の性格があり、小企業でも特色を発揮できる。

・競争原理も失われていない。

・企業内にあたたかさがある。

・従業員の教育に熱心である。

・従業員の質が高く、研究熱心な人が多い。

・従業員の性格が概して誠実で、堅実である。

法制的な側面や大蔵省の行政指導を含めて、日本の損害保険業界は諸外国の同種業界に比較しても、はなはだすぐれた業界であるといわなければならない。俗な言葉でいえば、企業の粒が揃っている。この点は大いに誇ってもよいだろう。

*

最後に、本書の成るに当って、日本損害保険協会、損害保険会社二二社、保険研究所、並びに実務教育出版から賜ったなみなみならぬご厚意に対し、衷心より深謝の念を申し述べて寸序を結ばせていただくことにする。

昭和五十八年四月

荒木 昌保

比較 日本の会社《損害保険》目次

はじめに——改訂にあたって

第I部 業界の概要

1 損害保険にはどのようなものがあるか／₁₀

書類を飛ばしても保険の対象になる
損害保険の種類

2 日本の損害保険会社／₂₁

株式会社と相互会社
保険料率は各社一律

3 損害保険会社の組織と仕事／₂₅

4 損害保険会社の経営／₂₇

5 今後の課題／₃₂

第Ⅱ部 各社の実力の比較

1 評価の意義／36

評価の有用性

出発点となる現状認識

2 元受各社の実力比較／39

各社の総合実力評価

評価の五項目

第Ⅲ部 各社のプロフィール

東京海上火災保険株式会社／72

安田火災海上保険株式会社／81

大正海上火災保険株式会社／87

住友海上火災保険株式会社／94

日本火災海上保険株式会社／103

同和火災海上保險株式會社／	108
日産火災海上保險株式會社／	115
興亜火災海上保險株式會社／	119
千代田火災海上保險株式會社／	125
日新火災海上保險株式會社／	132
日動火災海上保險株式會社／	139
富士火災海上保險株式會社／	145
大東京火災海上保險株式會社／	150
共栄火災海上保險相互會社／	155
大成火災海上保險株式會社／	162
第一火災海上保險相互會社／	168
東洋火災海上保險株式會社／	171
朝日火災海上保險株式會社／	177
太陽火災海上保險株式會社／	180

大同火災海上保険株式会社／¹⁸⁴

東亜火災海上再保険株式会社／¹⁸⁶

日本地震再保険株式会社／¹⁹⁰

外国企業／¹⁹⁴

第Ⅰ部 業界の概要

損害保険の種類と業界の展望

日常生活に関係の深いものでありながら、意外に知られていないのが損害保険である。損害保険にはどのような種類があり、どのような役割を果たしているか。また業界にはどのような会社があり、会社の中ではどのような仕事が行なわれているかを見よう。

1——損害保険にはどのようなものがあるか

書類を飛ばしても保険の対象になる

損害保険といえば、すぐ火災保険や自動車保険を思い出す人が多いであろう。事実、火災保険や自動車保険は、これまでの損害保険の主力であることは確かである。しかし火災保険や自動車保険だけが損害保険ではない。予測できる確率で偶然に起きる災害や損失は、それが契約者として反道徳的なものでない限り、すべて損害保険の対象となると考えてさしつかえない。

篠田雄次郎氏（上智大学教授）は『ドイツ人と日本人』（光文社刊）という著書の中で、次のようなことを述べている。

「ドイツは保険の国といっている。およそありとあらゆるものが保険の対象になっている。友人とプールに行ったときに、自転車に鍵をかけないで、『大丈夫か。』ときくと、『いや保険にかかっているから、盗難にあったらすぐ保険が払ってくれるよ。』とのことだった。

たとえば大学の寄宿舎は全体に保険をかけてあるから、そそかしい人間が階段を踏み外して骨を折れば、保険が支払ってくれる。

あるとき、私がいじめな論文を執筆中、窓をあけたままにして外出したことがあって掃除の女の